

小竹だより



練馬区立小竹小学校 校長 佐藤 正文

開校60周年臨時号

R2.7 No. 559

小竹小学校 三十周年 記念誌より

校長 佐藤 正文



昭和 56 年（1981 年）度から平成 2 年（1992 年）度までの 10 年間を、30 周年記念誌より紹介します。躍動的な表紙の写真がカラー印刷となり、子供たち、先生方の元気いっぱいの姿が伝わってきます。航空写真の左下を見ると、当時は 4 つの教育目標で学校づくりをしていたことが分かります。現在 共に生きる子ども かしこく やさしく たくましく

2 つの大きな工事は、まだ続いていました。昭和 54 年から始まっている地下鉄工事、昭和 56 年から始まった三六道路小竹トンネル工事です。

昭和 48 年度から昭和 56 年度までの 8 年間、本校の校長として務められた第 4 代吉丸秀幸先生は、まさに保護者、地域の方々と共に行政と話し合いを重ねながら工事着工までの歩みを進めてきたのではないのでしょうか。

昭和 57 年には駅名「小竹向原」が決まり、三六道路小竹トンネル工事は、8 月に完了しています。校庭の南側にそびえていた鉄板の壁や子供たちが通っていた歩道橋も取り外され、現在の新たな道になりました。小竹向原駅 2 番出口を出たところに、当時の町の願いが込められた記念碑が立てられています。



【昭和 58 年（1983 年） 新体育館工事着工】
【校庭南側 断面を表した図面】



記念碑の文面

『要町通り（都道 441 号）小竹向原駅前 三六道路

武蔵野の面影を残したこの地に、地下鉄とともに道路が計画された。生活の利便さと引替えにもたらされる環境の悪化を憂えた地域の人々は、良好な環境と生活を守るために立ち上り団体を結成し、悩み、考え、学び、行動し苦渋の選択を行った。行政と住民団体との十数年に及ぶ相克と合意づくりへの情熱により「校庭部分の地下化」、「歩道の拡幅」、「緑豊かな堤と遊歩道」、「無電柱化」、「自転車置場」等を実現し、町づくりの一環としてこの道路が今ここに完成した。

都と住民との英知と努力の結晶として生まれたこの道路が、今後の道路建設のひとつの方向を示す道しるべとして、末永く健全に守られることを希い、ひたむきに取りくんだ多くの人々の熱意と行動の証しとしてこの碑を置く。』

昭和 59 年 3 月 3 日。学校の東側には、植物観察等、理科・生活科の学習を行うグリーンランドや新しい体育館も完成しました。その 3 年後、講堂兼体育館の跡地に小竹の森・観察飼育池ができました。昭和 62 年 3 月のことです。

翌年の 1 月 29 日には練馬区教育研究校として理科の研究発表会を実施しています。大きく変わった環境をテーマに、研究を通して子供たちに自然と共に生きる力を身に付けさせるという願いが込められていたのでしょう。

「30 周年には緑がいっぱいになっている」と 20 周年の時にお話されていた梅内様（元区議会議員、元小竹町会長）の言葉通り、昭和 63 年 3 月 31 日には小竹小学校の緑化工事は完了し、緑に包まれた学校として発展してきました。



【三六道路の記念碑】

30 周年記念誌には、たくさんの方々からのお祝いのメッセージが掲載されています。歴代の校長先生、PTA 会長、卒業生、校医の先生方が小竹小学校で過ごされた日々の出来事が「あの日 あの頃」として記されています。第 5 代校長小林昌道先生の「壁がなくなった」、校医さんの学校保健随想は、とても興味深く読むことができました。また、子供たちからは「小竹小のこんなところがすき」では、校庭が広い、自然が豊か、友達や先生が優しいところが「好き」な内容としてとても多かったです。「こんな学校だったらいいな」は、もっと〇〇、〇〇があったらいいな等々、子供たちの願いは様々でした。各クラス毎に、一人一人が書いた「ぼくのゆめ わたしのゆめ」では、将来夢見ている職業についてのページです。夢の実現を果たした卒業生が、今も社会で活躍されていることでしょう。

三十周年記念誌は、小竹小学校と町の伝統を引き継ぐメッセージが伝わってくる記念誌でした。

【次号 8 月臨時号は、小竹小学校の植物についての記念誌へとつづきます。】



【昭和 63 年 1 月 理科の研究発表会】



【昭和 60 年（1985 年）度 卒業制作 孫悟空】